

～健康診断と放射線～

胸部のX線撮影やバリウムを飲んで行う胃の造影検査、さらにはCTによる断層撮影など、放射線を使って身体の中の様子を撮影する検査は広く行われています。

しかしながら、福島第一原発の事故以来、目にも見えず臭いもしない放射線に漠然と不安を感じ、発がん性を危惧する方が増えたように思います。

放射線が人体を透過する際には、細胞の中の染色体を傷つける場合があります。しかし、人間の身体には細胞を修復し、再生する能力があるので、放射線による影響が蓄積されることはありません。

広島・長崎の原爆被爆者を対象に長年にわたって行われている調査によると、胸部のX線撮影を1000回以上受けた場合の線量に相当する100～200ミリシーベルト(実効線量)よりも高い線量の場合には、線量が多くなるほど発がんリスクが高まるという関係性のあることが明らかになっていますが、それよりも低い線量の

場合には確認されていません。

私たちの身の回りには、宇宙から降り注ぐものや地中の花崗岩かこうがんから発生するものなど自然放射線と呼ばれるものが存在し、私たちは常に弱い放射線を受けながら生活をしています。

また、中国やインド、ブラジルの一部の地域など世界には、日本よりも自然放射線の多い場所で暮らしている人々がいます。中国の自然放射線が高い地域の住民について健康調査を実施し、周辺地域の住民との比較を行ったところ、がんになる人や子どもの遺伝性疾患の割合に有意の差は認められなかったという報告もあります。

健康診断により病気の早期発見が可能になることは、予防医学という観点から大変重要な意味を持っています。掛け替えのない自分自身の身体を健康に保つために、定期的に健康診断を受けることはとても大切なことです。

医療被ばくについて不安がありましたら、放射線管理士の認定資格を持つスタッフが対応しますので、お気軽にご相談ください。